33

「台灣醫學史學會」の学会活動
――2018 年台灣醫學史學會暨學術検討會から得た知見――

福永　　肇
金城大学社会福祉学部

台湾には「台灣醫學史學會」がある．2018 年 10 月開催の台灣醫學史學會暨（き）學術検討會（以下学術大会と略記）への招待を頂き，参加した．この学術大会で見聞した台灣醫學史學會の学会活動を紹介したい．学会会場には日本医史学会から贈られて来た「圓満成功」の名札が付いた花束が飾られてあった．これからの，ますますの台湾と日本の医学史学会間の交流や共同研究着手などを期待したい．

1. 台灣醫學史學會の歴史

台湾には 1902 年が創設という伝統ある「臺灣醫學會（The Formosan Medical Association: FMA）」があり，そこで医学史研究が行われてきた．2008 年に「台灣醫學史學會（The Taiwan Association of Medical History: TAMH）」が設立され，医学史を専門とする学会活動が始まった．NPO 法人である．学会の目的は台湾の医療史研究を通じて，台湾医療への歴史観形成，医学の発展，医学史研究，教育への寄与などである．学会本部は高雄市の高雄長庚紀念醫院（2,686 床）に置かれている．活動は毎年度の会員総会，学術大会，論文募集や，医学史に関するイベントや展示への共同主催，協賛を行っている．現在の理事長は 4 代目で，張秀蓉氏（國立臺灣大學退休教授，臺大醫院顧問）が務めておられる．学会誌の発行はないようだ．会員数は不明である．

2. 2018 年台灣醫學史學會学術大会の参加報告

上述の通り，2018 年の学術大会は，10 月 28 日に台中市の衛生福利部臺中醫院（618 床）で開催された．衛生福利部は日本の厚生労働省に相当する官庁で，すなわち臺中醫院は国立病院で，台湾中部を代表する病院の一つである．日本統治が開始された翌年（1896 年）に台湾総督府が開設した「台中縣台中病院」の直系病院で，この病院の 123 年の歴史は台湾の医療史そのものである．

2018 年の学術大会のテーマは「中台彎之醫療発發展」で，台湾中部地方の医療史が発表の中心に据えられていた．私以外の 8 人の発表者は医科大学（副学長，教授，副教授）や台中の大規模病院（総裁，副理事長，副院長）などの代表者であった．発表者の持ち時間は 30 分間．各発表者とも所属する組織や領域を代表しての充実した発表内容で，台湾医療史の知見形成に対する強い意気込みが感じられた．

研究報告は以下の 9 題であった．原文（台湾語）で記載する．「中台彎公立醫院之發展史」「中台彎私立醫院之發展史」「中台彎教會醫院之發展史」「中台彎醫學中心（＝メディカルセンター）之發展史」「中台彎公共衛生之發展史」「中台彎醫療民團（＝医師会）之發展史」「中台彎護理（＝看護）之發展史」「中部鄉村医療之演進及び其他重要角色（中部の地域医療の發展）」「日本醫史學會之過去與未來」．

3. 台彎の医療小史

学術大会から以下の知見を得た．台湾の医療史は ①第二次世界大戦前の清朝，日本統治時代（1857 年～），②第二次大戦後（1945 年～），③国民皆保険以降（1995 年～）の三つに区分される．西洋医学は 19 世紀中ごろに長老教会の医師伝道師によって台湾に導入された．日本統治時代には，医療と医学教育の普及は重点政策項目として資源投入が行われた．第二次大戦後，台湾は中華民国の領土になる．当初，病院の大半は国公立であった．その後，民間病院が急増し，台湾の病院は民間中心に構造変化する．病院数は 1987 年に約 820 のピークに達し，以降は減少に転じ，現在は 500 強である．病院数の減少とは反対に病床数は増加の一途であり，すなわち台湾の病院は大規模病院の出現・増進（2,000～3,000 床クラスの民間病院が多くある），中小規模病院の淘汰という病院史になっている．1970 年代後半以降の経済成長により台湾はアジアの工業大国になり，国民生活の豊かさを実現した．それを背景に医療整備が急速に進められ，1995 年に医療皆保険，1996 年に歯科皆保険，1997 年に中医（東洋医学）皆保険が導入された．これで台湾の医療提供体制の基盤は完成し，今日に至っている．